

国語国文学会だより



No. 35

2006. 9

日本文学科卒業生の会

国語国文学会

春の総会・研究発表会報告

平成十八年度春の総会・研究発表会を六月一日（木）、百年館低層棟五階五〇六教室にて開催しました。

◆第一部 総会

- (1) 国語国文学会会長挨拶 清水康行先生
(2) 奨学金授与 上村悦子奨学金

院博士課程前期2年次 森田みちる氏
院博士課程後期3年次 ペ・ジンヨン氏
日本女子大学日本文学科賞（奨励賞）

- 学部四年次 郡司加代氏
(3) 国語国文学会委員長挨拶・役員紹介 院博士課程前期2年次 家森善子氏
(学生会の会・卒業生の会)

- (4) 平成十七年度活動・決算報告
(5) 平成十八年度活動計画案・予算案・監査選出

- (4)(5)については、学生、卒業生より各々報告説明を行い、各案件とも審議後承認

- (6) 自主ゼミ発足（学生の会・卒業生の会）、承認

◆第二部 活動報告と研究発表

交換留学生紹介及び挨拶

学部三年 イム・ジンジュ（梨花女子大学）
スチウエル、ミシエル・エル（オレゴン大学）
ノーラン、アンジェラ・ジェイ（オレゴン大学）

秋季大会・公開講演会のご案内

- ▼日時 平成十八年十一月十八日（土）

13時30分～16時

- ▼場所 成瀬記念講堂

- ▼公開講演会

題目未定

平岩弓枝氏

- ☆講師略歴

平岩弓枝（ひらいわ ゆみえ）

昭和七年東京生まれ。日本女子大学国文学科卒。昭和三四年『髪師』にて直木賞受賞。昭和五四年NHK放送文化賞。平成元年日本文芸大賞。平成二年『花影の花』にて吉川英治文学賞。平成九年紫綬褒章。平成十年菊池寛賞。代表作に「御宿かわせみ」シリーズ、「はやぶさ新八御用帳」シリーズなど。

- ▼講演

「日本語教育はおもしろい」

本学教授 江田すみれ先生

- ▼懇親会

講演会終了後、ワイミンにて（予定）

会費三千元（学生千五百円）

- *研究発表会

十八日 10時～12時

百年館低層棟504にて

- 発表者募集

詳細は四面参照

▼報告

- 活動報告

中古ゼミ 三年次 佐藤千恵氏

- 活動報告

皇女研究会 一文字昭子氏

▼研究発表

大蘇芳年筆『新形三十六怪撰』論——『為朝の武威 痘鬼神を退く図』を中心に 新56 塚田宏子氏

『蜀道難』にみる謫仙人・李白 新56 塩沢夏希氏

二〇〇五年度日本文学科学賞学術賞受賞

平成十七年度卒業生の会活動報告

(1) 総務

・ 回生委員会・常任委員会の招集

・ 春季総会・研究発表会の開催 六月二日(木)

(2) 企画

・ 自主ゼミの活動

・ 平安文学談話会・皇女研究会・古代中世文化論

・ 秋季大会の開催 十一月二十六日(土)

・ 研究発表大会・総会・講演会・懇親会

(3) 会計

・ 会費納入の確認

・ 収支・運営・備品の完備など

(4) 編集

・ 「国語国文学会だより」の発行

三十三号(春の大会報告号 八月)

・ はがき通信 四月(春の総会案内)

・ はがき通信 十月(秋季大会案内)

平成十八年度卒業生の会活動計画

(1) 総務

・ 春季総会・研究発表会の開催 六月一日(木)

(2) 企画

・ 自主ゼミの設立

・ 平安文学談話会(古筆を読む)

・ 皇女研究会(国史を読む)

古代中世文化論(謡曲)

・ 秋季大会の開催

・ 研究発表大会・総会・講演会・懇親会

・ 文学散歩の実施予定

(3) 会計

・ 会費納入への協力依頼

・ 活動充実のための備品の整備・購入

(4) 編集

・ 「国語国文学会だより」の発行

秋の大会報告号 三十四号(四月)

春の大会報告号/秋の大会案内号(八月)

・ はがき通信 十月

平成十八年度常任委員

総務 児玉久美子(46) 土橋ユリヨ(新31)

企画 藤木直実(院31) 稲田千恵子(院33)

企画 立川和子(新1) 関根緑(44)

企画 平山静(新34)

会計 津田英子(新6) 齊藤令子(新6)

編集 倉田智子(新31) 福原房枝(新28)

編集 斎藤視知(院35) 黒川晴美(新33)

中田和子(院27)

本年度の会計監査は金石教子さん(新12)、菅家由紀子さん(新6)です。

日本女子大学国語国文学会・卒業生の会

平成17年度決算報告(平成18.6.1)

【収入の部】

(円)

項 目	予 算	決 算	増 減
前年度繰越金	189,141	189,141	
会 費	600,000	631,880	△ 31,880
利 子	0	12	
寄 付	0	10,040	固定販売手数料
計	789,141	831,073	

【支出の部】

通信費	270,000	224,390	▲ 45,610
文具費	3,000	555	
コピー代	5,000	1,430	
会報印刷費	100,000	84,000	▲ 16,000
名簿作成費	100,000	0	
委員会活動費	56,000	39,549	▲ 16,451
・ 委員会費	(15,000)	(5,549)	
・ 交通費	(36,000)	(34,000)	
・ 行事費	(5,000)	(0)	
ゼミ費	30,000	30,000	
秋季大会費用	100,000	80,838	▲ 19,162
慶弔費	5,000	0	
パソコン関係諸費	50,000	41,330	▲ 8,670
予備費	70,141	0	
計	789,141	502,092	

次年度繰越金 ￥328,981

上記の通り決算報告致します。

会計 津田 英子 齊藤 令子

監査の結果、上記決算報告が正確であることを認めます。

監査 金石 教子 多田 孝子

平成十八年度研究サークル

* 平安文学談話会（古筆を読む）

金曜日 午後四時半（年十回）

日本文学科研究室

・高野晴代 ○三（三三七〇）六八〇六

* 皇女研究会（皇女総覧平安朝篇の作成）

不定期 土曜日 午前十時半

大学図書館共同研究室

・柳澤理恵子 ○四五（八四二）六五二五

* 古代中世文化論ないし芸術論

毎月第四木曜日 午後一時半～三時半

桜楓会館新館にて

・山田佐和子 ○三（三九七二）四八四三

○『国文目白』第四十五号ができました。ご希望の方は葉書で左記までお申し込みください。

〒一〇二八六八一 文京区目白台二・八・一

日本女子大学日本文学科研究室『国文目白』係

代金は、冊子到着後に払い込んでください。

（送料別 千円）

国文目白第四十五号

墨家の人間観——何が墨家を急速な衰退に導いたのか——

「記憶」から「記録」へ

——壬申紀の筆録と編修——

『万葉集』の比良——巻十一 二七四三歌の解釈を

中心に——

桐壺更衣という呼称——元白唱和における「紫桐

花」の受容を中心に—— 森田直美

寝殿造における「放出（はなちいで）」の考察——

『落窪物語』の「放出」に対する疑問 時田麻子（野宮）の六条御息所

像試論 井上 愛

『雲玉和歌抄』における

の蒙求説話 矢口祐子

「鬼一法眼虎の巻」試

論 宮本祐規子

「義経千本桜」の成立

をめぐる——歌舞伎

との関係を中心に——

小田原事件サブプロット

——岡田時彦と谷崎潤一郎——

『少女地獄』少女の遺書と（仮死）——伊藤里和

岡本かの子『渾沌未分』論

——小初が希求したもの——

林芙美子——戦争迎合作家の反戦感情——家森善子

林芙美子『浮雲』

——ゆき子の（転落）をめぐる——間中宏美

『古事記』の意味論的表記論——「ユク（行・往）」

と「カヘル（還・返）」——佐藤麻衣子

複数のコーパスによる文法項目の使用頻度調査——

予備調査の報告——江田すみれ・小西 円

『俊頼脳髓』の語彙

主語の交替をめぐる分裂文／非限定的連体節の役割

公貸権と貸与権

「書評・紹介」「彙報」

日本女子大学国語国文学会・卒業生の会 平成18年度予算（平成18.6.1）

【収入の部】	
項 目	予 算
前年度繰越金	328,981
会 費	600,000
計	928,981
【支出の部】	
項 目	予 算
通信費	370,000
文具費	3,000
コピー代	5,000
会報印刷費	100,000
名簿作成費	120,000
委員会活動費	66,000
・委員会費	(15,000)
・交通費	(36,000)
・行事費	(15,000)
ゼミ費	30,000
秋季大会費用	100,000
・講演料	(60,000)
・諸経費	(40,000)
慶弔費	5,000
パソコン関係諸費	60,000
予備費	69,981
計	928,981

研究室だより

○ 日本語学担当の藤原浩史先生が、平成十八年度末をもって中央大学に移られました。先生のこれまでの御尽力に感謝し、ますますの御活躍をお祈り申し上げます。

○ 本年度より、藤原先生の後任として、玉川大学より、坂本清恵先生をお迎えしました。先生は、日本語学、特に中近世の声調史研究を主たる研究領域をされています。

○ 昨年度、英国での海外研修に出られていた田辺和子先生（外国人留学生特別科目）が、御帰任になりました。

○ 本年度前期には、田中功先生（図書館情報学）が、サバティカルを取られています。

○ 他の先生方は昨年と変わりありません。

平館英子先生（上代文学）

後藤祥子先生（中古文学、引き続き学長・理事長を務められています）

石井倫子先生（中世文学）

児玉竜一先生（近世文学）

倉田宏子先生（近代文学）

源五郎先生（近代文学）

谷中信一先生（中国思想史）

江田すみれ先生（日本語教育学）

清水康行（日本語学）

○ 専任助手は、昨年と変わらず、白石美鈴さん、溝部優実子さん、八木京子さんです。八木さんは、四月より産休を取られ、めでたく男児ご出産、八月に復帰されました。

○ 非常勤助手は、昨年に引き続いての渡部麻美さんと、八木さんが産休の間、北亜耶乃さんに御願ひしています。

○ 昨年十一月五日、文学部企画（日本文学科担当）の公開シンポジウム「百年前の音を探し、甦らせ、聴く」が開催され、現存最古の日本語会話録音の試聴・解説など、初期録音資料の調査研究に関する報告がなされ、新泉山館の大会議室につめかけた学内外の参加者に大きな感銘を与えました。

○ 来る十月二十七日（金）、日本文学科と萬葉語文学研究会共催による公開シンポジウム・研究発表会「上代文学研究の道しるべ」が、新泉山館・大会議室を会場に行なわれます。佐藤麻衣子（本学大学院博士課程前期）・瀧口翠（東京女子大学博士課程）・白井伊都子（淑徳大学）・坂本信幸（奈良女子大学）の各氏による研究発表が、内田賢徳（京都大学）・乾善彦（大阪府立大学）・影山尚之（園田学園女子大学）・平舘英子（日本文学科）の各氏による司

会・コメントと共に予定されています。続く二十八日・二十九日には、本学を会場として、萬葉学会の全国大会も開催されます。皆様のご来場をお待ち申し上げます。

○ 毎夏の恒例となった「国語教員の会」が、七月二十九日（土）に開かれ、午前の部では、本学科出身で中学・高校の国語科教師の諸先生による近況報告と本学への御要望を伺う懇談会、午後の部では、教職志望の在学生も多数参加し、濱田美枝子先生（新制二十一回生・院十一回生、フェリス女学院中学高等学校教諭）による教育活動報告「生き生きとした教育を目指して―教師にとつてのサバティカルの重要性―」と、それを受けての活発な質疑応答が行なわれました。

○ 国語国文学会の本年度の担当は、石井先生、児玉先生、白石さんです。（清水記）

▼文学散歩岡本かの子の息吹を感じて
岡本かの子をめぐる川崎市多摩川沿い散策を企画しました。

ゆかりのある資料を多数所蔵する川崎市民ミュージアムを訪れ、貴重な資料に触れます。直筆の原稿、書簡、短冊、珍しい謹呈書などで、かの子の手跡を味わい、豪華本や豆本などを鑑賞し、かの子の文学世界に思いをはせます。その後、かの子と一平が結婚前によく逢引をしたという二子神社を訪れ、息子太郎によって創られた文学碑「誇り」へ。碑文は、川端康成、亀井勝一郎によります。

藤木直実（新41・日本文学科非常勤講師）、近藤華子（新53・大学院博士課程後期二年）がご案内いたします。

日時 十月十四日（土）午前十時～午後五時ごろ
集合場所 JR南武線津田山駅改札口

費用 二千円程度（昼食代、観覧料ほか）
申し込み・連絡先（十月十日締切）

児玉久美子 〇四四（八一四）〇七五二

◆研究発表会 発表者募集

・日時 平成十八年十一月十八日（土）
・発表時間 三十分、質疑応答十分
・応募資格 本学国語国文学会の会員であること
・応募方法 論題に四百字以内に発表要旨を添えて申し込むこと。

・応募先 日本文学科研究室内「国語国文学会秋季大会研究発表者募集係」宛

・締切り 平成十八年九月三十日（金）
・選考方法 国語国文学会において選考を行い、選考結果は後日、個別に通知いたします。

○会計より

振替用紙を同封いたしました。本年度会費千円の納入を十一月末日までお願いいたします。

二〇〇六年九月一日

発行・日本女子大学日本文学科

国語国文学会卒業生の会

〒二二、八六八―東京都文京区目白台二、八―

日本女子大学 日本文学科内